キラリ十和田人 とわだひと

— 第36回 —

～ふるさとの素晴らしさを 伝えたい～

十和田湖・奥入瀬 観光ボランティアの会

▲4月の定例会に出席した会員の皆さん。若い会員にとって年長者は知識の宝庫です

MEMO

十和田湖・奥入瀬の観光を盛り上げようと平成12年から活動を開始したボランティア団体。十和田湖・奥入瀬の自然を愛するかたがたが集まる。現在の会員は18人。

大手旅行代理店からの要請にも応え、昨年は約3,500人をガイドした。環境美化の奉仕も積極的に行う。ガイドによる手数料は、通信費や交通費の助けとなり、「十和田湖・奥入瀬の魅力発信」を継続する仕組みを整えつつある。

幽玄の奥入瀬渓流を上り行き着くところ、水面（みなも）輝く十和田湖のほとりに「乙女の像」が建立されて60年余。高村光太郎最後の大作がここに建った経緯を、十和田湖・奥入瀬観光ボランティアの会が2年をかけ、ガイド本「十和田湖乙女の像のものがたり」としてまとめ上げました。

出版には「元気な十和田市づくり市民活動支援事業」を活用し、史実を元にした子ども向けの物語と、重厚な資料が収められ、4月1日からは販売もされています。

会長の小笠原哲男さんは「光太郎にまつわる著名なかたがたが不思議と結びついて、資料提供など喜んで尽力してくれました。ガイドの参考になるだけでなく、後世に残すものとなりました」と、予想をはるかに上回る出来栄えに、感謝に堪えない様子です。

会の日頃の活動を尋ねると、事務局長の下川原まゆみさんをはじめ、会員の皆さんは「主に奥入瀬渓流をふるさとの言葉で案内し、楽しく歩いてもらうこと」と話し、「多くのかたが『また来ます』と言ってくれる」と、渓流への高い評価を実感しています。

「実は、ガイド本の発端は、子どもたちに読んでもらおうと20数ページの漫画本を作ろうとしたことでした」と教えてくれました。会員の皆さんが日頃からアイディアを出し、各所へ赴いて研鑽を積みながら人脈を築いてきたことが、今回の成果につながったに違いありません。

「航空路線を利用して訪れる九州からの旅行客も増えたけど、市民のかたに、もっともっと味わってほしい」と現在、市民を対象にした奥入瀬渓流のガイドウォークを計画中。「十和田湖・奥入瀬は、魅力も、癒しの力も絶大です。ほんとにすごいところなんだから」と力説します。

春もみじの季節到来。

今年も、会員の皆さんが、はじける笑顔でふるさとの魅力を発信します。